

II 研究内容

1 確かな学力，豊かな心，健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム創造の基本的な考え方

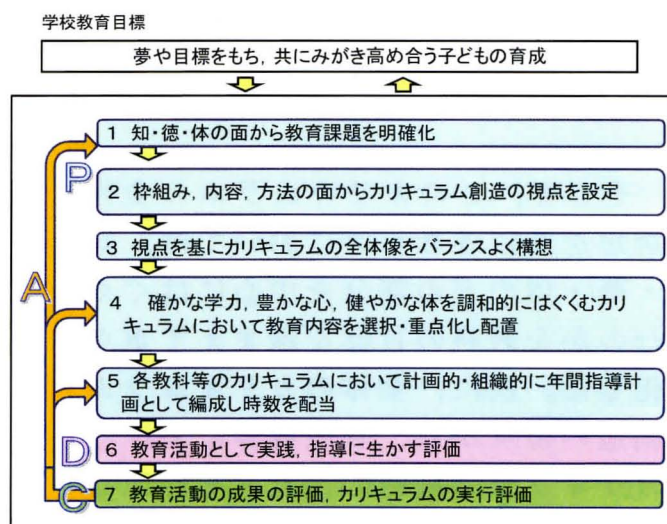
確かな学力，豊かな心，健やかな体が調和的にはぐくまれていく様子を，本校学校教育目標と照らし合わせて考え，次のようにとらえた。

子どもは本来「もっとわかりたい，もっとできるようになりたい」「学校や学級，社会の中でもっと自分の力を発揮して，よりよい人間関係を築きたい」といった自己実現への願いをもっている。そして，これらの自己実現の欲求は，試行錯誤を繰り返し，日々成長を遂げていくことにより，知・徳・体の各面に渡る全人的な成長へと昇華していくものである。そこで，その実現に向けて，カリキュラムを知・徳・体の三観点から調和的に構成されたものにするのが重要であると考えた。

そこで，この知・徳・体の三観点をカリキュラムの総体とし，さらに昨年度構築したカリキュラム創造の視点を生かして各教科・領域で重点的に取り組むべき内容を明らかにしながら，カリキュラムを具体化することにした。なお，このカリキュラム創造の視点は「枠組み」「内容」「方法」の三点から下記のように整理した。

枠組み	授業時数増加への対応，教師と子どもが向き合う時間的・心的なゆとり，活動を充実させる時間的ゆとりを生み出すための，二学期制の導入や校時表等学校全体の枠組みを見直す視点として，「学校のライフスタイルの見直し」
内容	各教育活動の内容を見直す視点として「 道徳教育の充実 」「 伝統や文化に関する教育の充実 」「 理数教育の充実 」「 外国語教育の充実 」
方法	各教育活動の方法を見直す視点として「 言語活動の充実 」「 体験活動の充実 」

なお，教育内容は，無数の経験の中から，子どもの発達を促し，教育の目標を達成するのに有効で発達の段階に即したものに精選される必要がある。そのような経験を，系統や関連を踏まえて意図的・計画的に組織したものがカリキュラムである。そこで，確かな学力，豊かな心，健やかな体を調和的にはぐくむために，図4のようなPDCAサイクルの考え方でカリキュラムを創造し実践していく。

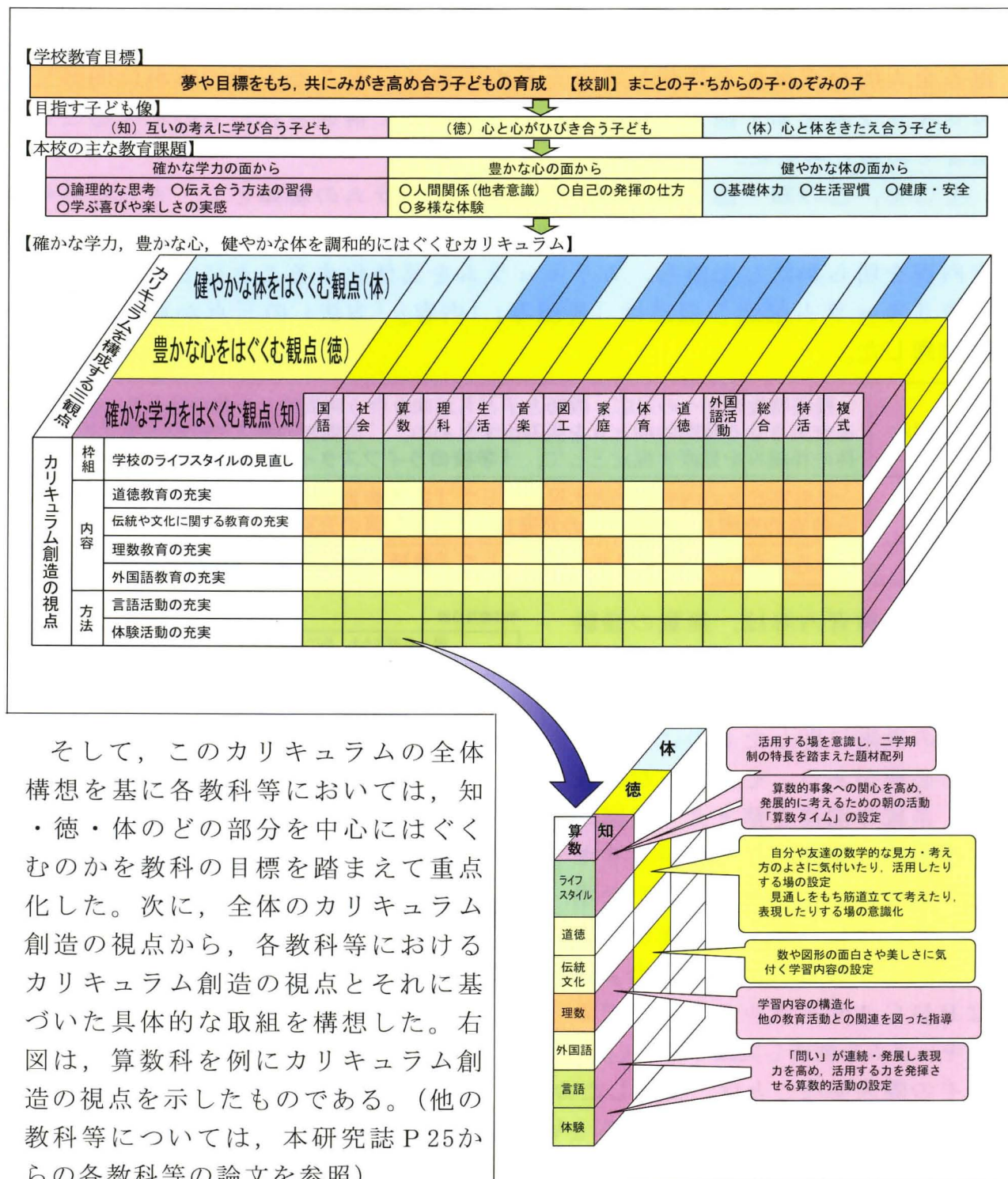


【図4 カリキュラム創造のPDCAサイクル】

その際大切なことは，構想したカリキュラムを実践する中で，子どもがどのように育っているのかを評価するという指導と評価の一体化を図りながらカリキュラムを修正していくカリキュラムマネジメントの意識を個々の教職員がもつことである。そして，その情報を教職員全体で共有し，常に学校教育目標と照らし合わせてカリキュラムを運用していくことである。

2 確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラムの全体構想

カリキュラム創造の視点を基に、確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラムを総合的・横断的に捉え図5のように構想した。上部の面はカリキュラムの骨格を構成する知・徳・体の三観点を示し、各教科等が重点として担当している観点を色の濃淡で表している。正面にはカリキュラム創造の視点を示し、各教科等で重点的に取り組む視点を濃く色づけしている。



【図5 確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラムの全体構想】

(1) 枠組みを見直す視点「学校のライフスタイルの見直し」

「学校のライフスタイルの見直し」については、二学期制の導入や朝の活動の充実がある。特に二学期制のねらいは、新学習指導要領での授業時数の増加に対応することや、二学期制で生み出された時間的・心的なゆとりを教師と子どもが向き合う時間として確保することにある。また、長い学期の中で体験・挑戦・反復などの学習指導を充実させたり、長期休業を有効に活用して学びの連続性を確保し授業を充実させたり、きめ細かな指導の充実を図ることである。

(二学期制についての詳細は本研究誌 P 15からの「二学期制試行初年度の成果と課題」を参照)

(2) 内容を見直す視点「道徳教育の充実」「伝統や文化に関する教育の充実」「理数教育の充実」「外国語教育の充実」

「道徳教育の充実」については、道徳の時間を要とし、重点化した指導内容を位置付けた「道徳教育全体計画」を作成する。そして、体験活動や各教科等の指導内容との関連を図り、道徳の時間の指導計画として具体化する。

「伝統や文化に関する教育の充実」については、我が国の伝統や文化のよさを再認識できる学習内容を国語科、社会科、音楽科、図画工作科カリキュラムの中で位置付け、各教科等や特別活動の学習内容の関連を図る。

「理数教育の充実」については、算数科・理科のカリキュラムを思考力や内容の系統に着目して編成するとともに、他の教科及び総合的な学習の時間において、算数科や理科で身に付けた知識・技能や論理的な思考力を活用する場面を設定し、知識・技能の確かな習得を図り、学ぶ価値を実感させ、算数や理科を学ぶ関心や学習意欲を高める。

「外国語教育の充実」では、コミュニケーション能力を育成するための素地をつくることに重点を置き、外国語活動の時間を全学年に週 1 時間ずつ位置付けるとともに、各教科等及び朝の活動等との関連を図る。

(3) 方法を見直す視点「言語活動の充実」「体験活動の充実」

ア 言語活動の充実

学習やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言語に関する能力を高めるために、中核的な役割を担う国語科カリキュラムを中心としながら以下の考え方で言語活動を充実させた。国語科では、三つの領域の関連性を図った言語活動を系統的にカリキュラム上に位置付けた。各教科等のカリキュラムでは、各教科等の目標を達成するために、具体的な体験を通して子どものよりよく伝えたいという思いを高める学習内容を設定した。そして、国語科で身に付けた言語活動を行う能力と以下の「表 2 本校の言語活動の中心事項」を踏まえて活動を具体化する。

その際、身体表現、絵、表、グラフ、歌等の各教科なりの表現も大切にし、

各教科の学びを取り入れて総合化していく。また、適切な用語を用いることができるようにし、語彙力も高め、適切な言語環境を整えるとともに、読書への興味・関心を高める取組を充実させる。

【表2 本校の言語活動の中心事項】

言語活動のプロセス	低学年	中学年	高学年
①情報を取り出す	事実と感想の区別	事実と意見、感想の区別	
②自分の考えをもつ	比較（順序）	比較（差異点、共通点） 関係付け	推論、一般化
③考えを表出する	相手に応じて表現方法を選択	相手や目的に応じて表現方法を選択	目的や意図に応じて表現方法を選択
④考えを交流し合う	対話 グループでの話題に沿った話合い	学級全体での進行に沿った話合い	計画的な話合い 討論
⑤振り返り、まとめる	一連の活動を振り返り、高まった自分の考えを再び表出する。		

イ 体験活動の充実

豊かな人間性や社会性を育てるとともに、生活の中での体験と学んだ概念とをやりとりしながら、思考を深め新しい認識の枠組みを獲得させるために、以下の考え方で体験活動を充実させる。

- 本物にふれることができるような直接体験を重視するとともに、「自分のよさを見つけられる活動」「継続性のある活動」「異年齢集団での活動」が充実するようにカリキュラムを構成する。
- 各教科等の体験活動では、以下に示す「表3 体験活動の要件」を踏まえて、発達の段階や子どもの実態に応じて活動を具体的に構想する。
- 活動のねらいを子どもにもたせるとともに、適切な言語活動と組み合わせた振り返りができるようにする。

【表3 体験活動の要件】

	活動の活性化	活動の意味への気付き	活動のつながり	道徳教育との関連
低学年	○ 場になじみ安心して活動できるようにする。 ○ 子どもの中で活動がつながるようにする。	○ 物事の本質に根ざした気付きが生まれるようにする。	○ 自分たちの生活や活動とつながるようにする。	○ よく考えて活動するよさに気付けるようにする。
中・高学年	○ 社会に目を向け、多くの人々とかかわることができるようにする。 ○ 自分とのかかわりを明確にし、主体的に取り組むことができるようにする。	○ 体験活動を振り返り、その意味を考えることができるようにする。	○ 体験活動と教科等での学習をつなげていく。	○ 集団や社会のきまりを守り、集団での役割と責任をもつことができるようにする。

3 確かな学力，豊かな心，健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラムの具体化

(1) 確かな学力をはぐくむカリキュラムの具体化

ア 確かな学力の面における課題とカリキュラムの基本的な考え方

これまでの研究により，確かな学力の育成の面から，「論理的な思考力，伝え合う方法の習得，学ぶ喜びや楽しさの実感」について課題があることが明らかになった。このような思考力・判断力・表現力の育成に関わる課題や学習意欲に関わる課題を解決し，確かな学力の三つの要素をバランスよく高めるために，以下の四つに重点を置いてカリキュラムを具体化した。

- 新学習指導要領を踏まえ，系統性や関連をもたせながら各教科等の目標を達成するためのカリキュラム創造の視点の設定
 - ・ 道徳教育，伝統や文化に関する教育，理数教育，外国語教育の充実を踏まえた指導内容の重点化
 - ・ 各教科，総合的な学習の時間における「習得」「活用」「探究」の位置付け
 - ・ 体験不足を補い，学習にリアリティを生み出す体験活動の充実
 - ・ 論理的思考力や学び合う方法，言語力を育成する言語活動の充実
- 各教科等の指導と朝の活動，環境整備の関連付けと，継続性をもたせたり関心を高めたりする取組の充実
- みんながわかる・できる授業を目指し，二学期制のよさを生かした指導と評価を一体化させた学習指導
- 教務部・教科等主任・学年主任を中心とした子どもの実態把握と指導，教職員の協力体制，地域・保護者との連携

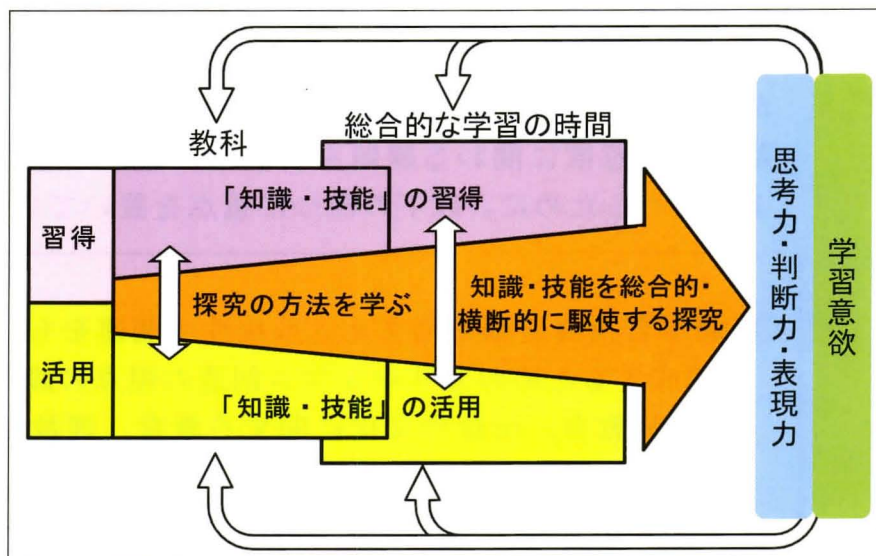
各教科等においては，目指す子ども像，カリキュラム創造の視点を設定して，年間指導計画を中心に探究的な課題解決学習を基本として，教育内容を見直すこととした。各教科，総合的な学習の時間における「習得」「活用」「探究」の学習活動を以下のような考え方で明確にし，カリキュラム上に位置付けていく。また，言語活動においては，その教科で学ぶべき語彙を具体的な体験を通じた理解の上で使用できるようにしていく。

イ 各教科・総合的な学習の時間における「習得」「活用」「探究」の位置付け

「生きる力」を育成するためには，「知識か思考力か」「教科か総合か」と二者択一的に学力を捉えるのではなく，「基礎的・基本的な知識・技能の習得→その上に立った知識・技能の活用→これらを総合的・横断的に駆使する探究」のように学習活動や学力を積み上げ式または螺旋式の構造として捉える必要があると考える。そのためには，各教科・総合的な学習の時間で探究的な課題解決学習を繰り返し学ばせるとともに，基礎的・基本的な知識・技能の習得とその上に立った知識・技能の活用が意図的・計画的に行われる必要がある。

そこで、本校では「習得」「活用」「探究」の学習活動を相互に関連付け、学力の三要素が循環的に互いに深められ形成されていくように、次のように各教科と総合的な学習の時間のカリキュラムを編成していくことにした。

各教科では、探究的な課題解決学習を基本としながら学習活動を展開し、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「基礎的・基本的な知識・技能の活用」を相互に関連させたり往還させたりすることにより思考力・判断力・表現力を育成したり学習意欲を向上させたりすることになる。また、高まった思考力・



【図6 各教科・総合的な学習の時間における習得・活用・探究の関係】

判断力・表現力，学習意欲は当然，学習過程においても発揮されうるものである。

この関係は、総合的な学習の時間においても当てはまるが、総合的・横断的な学習活動においては「探究活動」がより重視される事になると考える。

このような「習得」「活用」「探究」，各教科と総合的な学習の時間は互いに支え合う関係であり，各教科や総合的な学習の時間で知識・技能を活用できたことが子どもに有能感や有用感を味わわせ，学習意欲を高めることにつながる。うまく活用できなかったとしても，必要感をもって学習することにつながる。このように，学力を積み上げる計画をカリキュラムとして構想しそれぞれのつながりを明確にしておくことが確かな学力をはぐくむ上で大切であると考えます。

以下は，各教科等の授業実践から明らかになった「活用」の学習活動での学習内容設定の考え方である。

【「活用」の学習活動における学習内容設定の考え方】

- 活用可能な状態まで高まった知識・技能を活用し考える必然性がある学習課題
(実生活との関連がある内容，共通した直接体験や経験に根ざした内容)
- 集団での学びのよさを実感できる学習内容
(コミュニケーション能力を高める内容，多様な表現のよさに接する内容)
- 個の学びの状況に応じて，学習意欲を高める学習内容
(学ぶ喜びや楽しさを実感できる内容，習得の必然性や探究活動の意欲を高める内容)

ウ 確かな学力をはぐくむカリキュラムの全体計画

これまで述べてきた課題解決の考え方を基に確かな学力をはぐくむカリキュラムを具体化する。そこで，全体計画を9ページのようにまとめた。

目指す子ども像「互いの考えに学び合う子ども」

課題を共有し、意見を述べ合ったり、相互に評価し合ったりしながら協同的に学習を進める中で、互いの考えをさらに深めていくことのできる子ども。

成果と課題の把握

- 子どもの実態
- 教師の願い
- 保護者の願い
- 時代の要請

確かな学力の面における課題

- 読み取ったことや学んだことを根拠にした論理的な思考力の育成
- 伝え合う方法を習得させると学び合うよさを実感させること
- 学ぶ喜びや楽しさのより一層の実感

確かな学力をはぐむためのカリキュラムの重点

- 新学習指導要領を踏まえ、系統性や関連をもたせながら各教科等の目標を達成するためのカリキュラム創造の視点の設定
 - ・ 道徳教育、伝統や文化に関する教育、理数教育、外国語教育の充実を踏まえた指導内容の重点化
 - ・ 各教科、総合的な学習の時間における「習得」「活用」「探究」の位置付け
 - ・ 体験不足を補い、学習にリアリティを生み出す体験活動の充実
 - ・ 論理的思考力や学び合う方法、言語力を育成する言語活動の充実
- 各教科等の指導と朝の活動、環境整備の関連付けと、継続性をもたせたり関心を高めたりする取組の充実
- みんながわかる・できる授業を目指し、二学期制のよさを生かした指導と評価を一体化させた学習指導
- 教務部・教科等主任・学年主任を中心とした子どもの実態把握と指導、教職員の協力体制、地域・保護者との連携

各教科等による取組の重点

教科等	重点目標	カリキュラムの概要
国語科	自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子どもの育成	他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合うカリキュラム
社会科	人間の営みに共感し、自分とのつながりを見つめる子どもの育成	地域から学び、地域にかかわるためのカリキュラム
算数科	算数を共に創り出す楽しさを味わう子どもの育成	表現力を高め、活用する力を培うカリキュラム
理科	自然と対話する喜びを実感する子どもの育成	自然・科学・生活とのかかわりを重視したカリキュラム
生活科	自立していく喜びを実感する子どもの育成	人・社会・自然とのかかわり合いを重視したカリキュラム
音楽科	音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもの育成	音楽のよさや面白さ、美しさを実感するカリキュラム
図画工作科	表現へのこだわりをはぐむ子どもの育成	見るポイントとイメージを関係付け互いに高め合うカリキュラム
家庭科	家庭生活を工夫し続ける子どもの育成	自己の成長を実感するカリキュラム
体育科	動く心地よさを実感し、運動に親しむ子どもの育成	体の調整を目指したカリキュラム
道徳	自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもの育成	子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させるカリキュラム
外国語活動	コミュニケーションを通して、自己と協調する喜びを味わう子どもの育成	言語や文化の体験的な理解を重視したカリキュラム
総合的な学習の時間	探究の喜びを味わい、自分の生き方を考える子どもの育成	自らの課題を見出し続けるカリキュラム
特別活動	よりよい人間関係を築く子どもの育成	異年齢集団活動を充実させるカリキュラム
複式教育	互いに学びを深め合う子どもの育成	異年齢集団のかかわりを重視したカリキュラム

各係による取組の重点

読書タイム	・ 読書の習慣化と多様化、集中力の育成
〇〇タイム	・ 興味・関心、知識・技能を高めたり補ったりする活動 (ことば、社会、算数、生き物、歌声、クロッキー、ワールド)
家庭学習指導	・ 家庭学習におけるミニ探究の充実
自由研究指導	・ 作文、社会、統計グラフ、理科等
課外活動の充実	・ 合唱部、吹奏楽部、水泳部、陸上部、絵画同好会
読書指導、情報教育の充実	・ おすすめ100選の紹介 ・ 図書便りの発行 ・ 情報教育全体計画の実施
環境整備	↕
各種掲示版、教室	・ 興味・関心を高める設営、環境 ・ 達成感を味わわせる作品展示 ・ 思考力を高める設営
	・ 図書室、コンピュータ室等の情報環境の整備

確かな学力をはぐむためのカリキュラムの運用

- 二学期制のよさを生かした指導と評価の一体化、子どもの変容を見取る長期的な評定
- 教務主任・教科等主任・学年主任を中心としたカリキュラムのPDCAサイクルと教職員の指導力向上(学校評価、学年会での指導事項の確認、子どもの実態分析、朝の活動の企画等)
- 学級担任による子どもの変容をとらえた適切な指導と評価、保護者との情報交換(教育相談、PTA等)

(2) 豊かな心をはぐくむカリキュラムの具体化

昨年度の研究により、豊かな心の育成の面から、「人間関係（他者意識）、望ましい自己の発揮の仕方、多様な体験」についての課題があることが明らかになった。このような課題を解決し、子どもたちに豊かな心をはぐくむためのカリキュラムを具体化する。そこで、目指す子どもの姿、教育課題、カリキュラムの重点、各教科等による取組の重点、各係による取組の重点、環境整備、カリキュラムの運用の観点で整理し、全体計画を11ページのようにまとめた。

以下は、豊かな心をはぐくむ取組の例である。

異年齢集団活動の充実(特別活動)

集会活動として1年から6年までのメンバーで構成した兄弟・姉妹グループによる「チャレンジ長縄」、運営方法やルールを自分たちで決めて行う「チャレンジタイム」を行った。チャレンジタイムは新型インフルエンザの関係で学級での実施となったが、子どもたちが自主的にそして楽しく活動し、友達とかかわるよさを感じていた。



道徳教育の充実

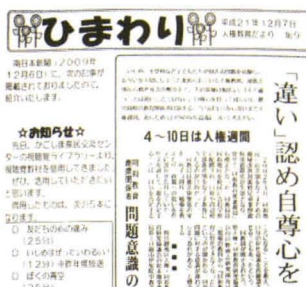
(道徳の時間, 心の時間)

道徳の時間の年間指導計画を子どもの道徳的価値にかかわる意識の連続性に着目して、各教育活動と関連を図るよう作成した。また、自分の生き方を見つめ直す時間として朝の活動「心の時間」を行った。



人権教育の充実

人権教育係を中心に、12月に校内人権週間を設定した。また、人権だより「ひまわり」で、新聞記事や子どもの日記などを職員と児童向けに紹介した。



生活努力目標の設定と環境整備

本年度は生活努力目標の重点を「相手に届くあいさつ、会釈をしよう」とし、生徒指導部が中心になって進め、児童会も共に取り組んだ。また、それと連動して子どもの取組の様子を以下の写真のように掲示板で紹介した。あいさつへの意識が変わり、あいさつが響き合うようになってきた。



目指す子ども像「心と心がひびき合う子ども」

他者の喜びや心の痛みを感じ共有し合ったり、生命の尊さや自然の偉大さなどに感動したりするなど、身の回りの人、もの、こととの豊かなかかわり合いを通して、自分の心との対話を深めていくことのできる子ども。

成果と課題の把握

- 子どもの実態
- 教師の願い
- 保護者の願い
- 時代の要請

豊かな心における課題

- 相手の立場に立って考え、行動することの価値や喜びの実感
- 異質な集団(異年齢集団等)における望ましい自己の発揮の仕方
- 多様な体験を通じた豊かな感性や粘り強さの涵養

豊かな心をはぐくむためのカリキュラムの重点

- 道徳教育、特別活動カリキュラムにおける豊かな心をはぐくむ指導内容の重点化と具体的な体験活動の充実
 - ・ 社会性を育成するために、体験活動や各教科等の指導内容との関連を踏まえた道徳教育カリキュラムの充実
 - ・ 言葉で伝え合う力を高め、コミュニケーション能力を高める各教科等カリキュラムの充実
 - ・ 望ましい自己の発揮の仕方を育成し社会性を育成するために、人とかかわる体験活動や言語活動を位置付けた特別活動カリキュラムの充実
- 豊かな感性や粘り強さを育成するための自然体験や生き物を育てる体験の充実と、学期毎を節目とした学級や個人の目標設定と振り返りの継続化
- 生徒指導部を中心とした子どもの実態把握と指導、教職員の協力体制、地域・保護者との連携

道徳教育における取組の重点

自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもの育成

重点指導内容

- ・ 基本的な生活習慣に関する内容
- ・ 向上心や個性伸長、勤勉・努力に関する内容
- ・ 思いやりや親切、友情や信頼に関する内容
- ・ 自然を愛することや生命尊重に関する内容
- ・ 公德心や家族愛、社会奉仕や公共心に関する内容
- ・ 郷土愛や愛国心に関する内容

道徳の時間の充実

- ・ 体験活動における子どもの意識と関連付けた指導の充実

各教科等の特質を踏まえた指導

- ・ ことばで伝え合う力を高める言語活動の充実(国語科)
- ・ 自然を愛する心情の育成(理科)
- ・ 生活上必要な習慣の定着(生活科)
- ・ 家族の大切さの実感、家族の一員としての役割の明確化(家庭科)
- ・ コミュニケーション能力の素地の育成(外国語活動)
- ・ 判断力と協調性の育成、人の生き方に学ぶ内容の充実(総合的な学習の時間)

特別活動

- ・ 実践的・体験的な活動の充実
- ・ 学級の実態を踏まえた学級活動の充実
- ・ 創意工夫してみんなのために活動する係・委員会活動の充実
- ・ ソーシャルスキル、構成的グループエンカウンター等の充実
- ・ 異年齢集団による活動の充実
- ・ 通学子ども会活動による通学マナーアップの取組

各係による取組の重点

生活指導係

- ・ 生活努力目標の設定と定期的な振り返り、共通実践事項の確認
- ・ 心の相談室としての保健室との連携充実
- ・ PTAとの連携充実(PTCC活動等)

教育相談係

- ・ 子どもとの個別教育相談(6月, 11月)
- ・ 保護者との教育相談日の設定, 家庭訪問(7月), 教育相談(12月)の実施

人権教育係

- ・ 校内人権週間の充実
- ・ 子どもの取組の紹介
- ・ 人権だより「ひまわり」の発行による啓発活動

特別支援教育係

- ・ 校内委員会の実施と外部との連携
- ・ 職員への特別支援教育に関する情報提供

朝の活動等

- ・ 自分の生き方についての考えを深める心の時間
- ・ 生命に触れる時間としての生き物タイム
- ・ 心と体をはぐくむにこにこタイム
- ・ 縦割り清掃活動
- ・ ボランティアタイム, あいさつ活動

環境整備

- ・ 環境設営による情報提供と啓発活動(あいさつ掲示板, にこにこ掲示板等の活用)
- ・ 過ごしやすい学校・学級の環境整備

豊かな心をはぐくむためのカリキュラムの運用

- 二学期制のよさを生かした指導と評価の一体化, 子どもの変容を見取る長期的な評定
- 生徒指導主任・教科等主任・学年主任を中心としたカリキュラムのPDCAサイクルと教職員の指導力向上(学校評価, 学年会での指導事項の確認, 子どもの実態分析, 朝の活動の企画, PTAとの連携・協力等)
- 学級担任による, 子どもの変容をとらえた適切な指導と評価, 保護者との情報交換(教育相談, PTA等)

(3) 健やかな体をはぐくむカリキュラムの具体化

これまでの研究により、健やかな体の育成の面から、「基礎体力、生活習慣、健康・安全」についての課題があることが明らかになった。このような課題を解決し、子どもたちに健やかな体をはぐくむためのカリキュラムを具体化する。そこで、目指す子どもの姿、教育課題、カリキュラムの重点、各教科等による取組の重点、各係による取組の重点、環境整備、カリキュラムの運用の観点で整理し、全体計画を13ページのようにまとめた。

以下は、健やかな体をはぐくむ取組の例である。

粘り強さやたくましさを培う

体験活動の充実(特別活動)

学校行事の遠足での登山や大運動会での種目では、目標とする自分の姿をイメージさせ、そこに向け粘り強くチャレンジできる場を設定した。また、振り返りの活動を充実させた。



運動の日常化に向けての取組の充実

(さわやかタイム, ふぞくサーキットコース)

体力運動能力調査の結果を基に、朝の「さわやかタイム」で楽しくできる具体的な運動を紹介した。また、縄跳びやランニングなど持久力を高める運動に目標をもって取り組めるよう、ワークシートを配布したり、固定施設を利用した「ふぞくサーキットコース」を設置したりした。



保健・安全教育の充実

(にこにこ週間, にこにこタイム)

生活習慣病予防週間「にこにこ週間」や、望ましい生活習慣や体と心の健康について指導する「にこにこタイム」等を行った。テレビ放送を用いて、養護教諭がT1, 担任がT2の役割を担って、効果的に個別の指導や板書等を行った。それぞれの活動に家族ぐるみで取り組む姿が見られた。



給食指導の充実

(献立の紹介, もりもりタイム)

食育の観点から栄養教諭が、料理の由来や食材の産地等を献立の紹介に加えた文書を各学級に配布し、日直が紹介する活動を行った。朝の「もりもりタイム」では、望ましい食習慣について栄養素の解説も交えて指導を行った。



目指す子ども像「心と体をきたえ合う子ども」

健康に生きていくための体力や生活習慣を身につけ、夢や目標に向かって励まし合いながら粘り強く努力することのできる心身共にたくましい子ども。

成果と課題の把握

- 子どもの実態
- 教師の願い
- 保護者の願い
- 時代の要請

健やかな体の面における課題

- バランスのとれた体力や基礎的な運動技能の育成
(全身持久力、筋持久力、瞬発力、上半身の筋力・筋持久力、巧緻性)
- 規則正しい生活や望ましい食習慣の定着
- 健康・安全への意識の高揚

健やかな体をはぐむためのカリキュラムの重点

- 体育科・家庭科・特別活動カリキュラムにおける健やかな体をはぐむ指導内容の重点化と具体的な体験活動の充実
 - ・ 体力・運動能力、望ましい生活習慣・食習慣に関する指導内容を重点化した体育科カリキュラムの充実
 - ・ 望ましい生活習慣・食習慣及び健康・安全な生活に関する指導内容を重点化した家庭科カリキュラムの充実
 - ・ 保健・安全教育を充実させ、粘り強さやたくましさを培う体験活動を重点化した特別活動カリキュラムの充実
- 運動会や遠足、集団宿泊学習などの行事を節目としてとらえ、なりたい自分をイメージさせ、その振り返りを定期的に行うなどの具体的な体験を通じた言語活動の充実
- 保健指導部を中心とした子どもの実態把握と指導、教職員の協力体制、地域・保護者との連携

各教科等による取組の重点

体育科 動く心地よさを実感し、運動に親しむ子ども
～体の調整を目指したカリキュラム～

- ・ 運動の特性に触れさせ、そのために必要な体力の向上
- ・ 附属体操を準備運動に位置付けることによる体力の向上
- ・ 体育学習での様々な運動の紹介と学習内容としての位置付け(筋力・筋持久力、全身持久力、巧緻性、瞬発力)
- ・ 基本的な生活習慣や望ましい食生活、自分の体について学ぶ保健学習の充実

家庭科 家庭生活を工夫し続ける子ども
～自己の成長を実感できるカリキュラム～

- ・ 五大栄養素の理解や栄養バランスを考えた献立づくり
- ・ 住環境や衣服に関する知識・技能の習得と家庭生活での実践化

特別活動(学校行事)

- ・ 体を動かしたり、目標に向かって粘り強く取り組んだりする体験活動の充実
- ・ 自分の体を知るための身体測定や健康診断、体力テストの実施と具体的な取組につなげる事前・事後指導の実施
- ・ 大運動会や遠足(登山)等の節目の行事を設定し、個人や学級での目標の設定と取組の振り返り

特別活動(学級活動)

- ・ 基本的な生活習慣や心身共に健康で安全な生活態度、望ましい食習慣に関する指導の充実

特別活動(児童会活動・クラブ活動)

- ・ 委員会児童の常時活動や運動や保健に関する行動の啓発活動
- ・ 興味のある運動や克服したい運動に関するクラブの開設

各係による取組の重点

保健指導

- ・ 「ここにこタイム」での望ましい生活習慣についての指導(はみがき、早寝・早起き・朝ご飯)
- ・ 啓発活動(保健便り・掲示板への掲示)
- ・ 朝の会の「ここにこびより(毎週水曜日)」での基本的な生活習慣の意識付け
- ・ 朝の健康観察の充実

給食指導

- ・ 啓発活動(給食便り・毎日の献立の紹介・掲示板への掲示)
- ・ 「もりもりタイム」での望ましい食習慣の指導
- ・ 栄養教諭による保護者への給食指導講話
- ・ 給食週間の充実

安全指導・防火防災

- ・ 危険予知能力、危険回避能力等を育成する日々の安全指導や避難訓練の実施

体育指導

- ・ 「さわやかチャレンジ」による運動の日常化の意識付けと「ふぞくサーキットコース」の活用
- ・ 「さわやかタイム」での運動する場の設定
- ・ 水泳、陸上特別指導

美化指導

- ・ 異年齢集団での自主的な清掃活動

環境整備

- ・ 環境設営による情報提供と啓発活動
- ・ 学校生活環境の安全管理及び清掃活動の推進
- ・ 運動に楽しんで継続的に取り組むための環境づくり(施設整備、「ふぞくサーキットコース」)

健やかな体をはぐむためのカリキュラムの運用

- 二期制のよさを生かした指導と評価の一体化、子どもの変容を見取る長期的な評定
- 保健主任・教科等主任・学年主任を中心としたカリキュラムのPDCAサイクルと教員の指導力向上(学校評価、学年会での指導事項の確認、子どもの実態分析、朝の活動の企画、PTAとの連携・協力等)
- 学級担任による、子どもの変容をとらえた適切な指導と評価、保護者との情報交換(教育相談、PTA等)